

学校名 北海道札幌北陵高等学校

学校関係者  
学校評議員  
5名

1 学校教育目標

1 自己を開く 2 知を啓く 3 未来を拓く

めざす姿

- 1 他者の考えにふれ、自分を成長させようとする姿勢
- 2 先人の知に学び、視野をひろげようとする姿勢
- 3 新時代の担い手としての使命を探り、社会に貢献しようとする姿勢

育成めざす資質能力

「傾聴力・発進力・協働力」「課題発見力・計画力・実行力」「主体性・社会性・創造性」

2 年度の重点目標

すべての教育活動について育成を目指す資質や能力を生徒に明示し、ICTの活用を図り、生徒が学び方を学べるよう推進する。

3 経営方針

- (1) 学びの重点化を図り、学習・指導方法を不断に改善し、教科横断的な取り組みを推進する。
- (2) ユニット・学年相互の連携を密にし、組織力を生かした学校経営を推進する。
- (3) 自他の生命と人権を尊重し、いじめを絶対に許さない環境作りを推進する。
- (4) 様々な危機管理事案に迅速・的確・丁寧に対応できる学校体制を確立する。
- (5) 北海道アクション・プランを推進し、効果的な教育活動を行い教育の質を高める。

4 自己評価結果

評価基準 【A：達成している B：おおむね達成 C：やや不十分である D：不十分である】

5 学校関係者評価

(1) 自己評価の適切さ

評価基準 【A 適切な評価である B ほぼ適切な評価である C やや不適切な評価である D 不適切な評価である】

(2) 改善に向けた取組の適切さ

評価基準 【A 十分な効果が期待できる B ほぼ十分な効果が期待できる C あまり効果が期待できない D 全く効果は期待できない】

領域	重点事項	評価の観点	自己評価	改善・充実の方策	学校関係者評価		
			達成状況		(1)自己評価の適切さ	(2)改善に向けた取組の適切さ	
Ⅰ 学習指導	①生徒一人ひとりの学びの現状を把握し、的確な指導の充実を図る。	□各種データに基づいた一人ひとりの学びを把握し、今後の指導を面接等で生徒と共有できたか。	B	○各教科・教務ユニット・学習コーディネート会議の連携により、授業改善へ向けた教科研修の活性化と探究活動の充実を図る。	B	B	
	② ICTの活用をし「授業力向上」を目指す。	□当初計画しているICT活用を行い、それに伴う成果を生み出すことが出来たか。	B	○ICTを活用した授業力の向上と負担軽減に向けた校内研修・教科研修を充実し、授業や探究活動など様々な場面で活用を促す。			
	③授業での協同的な活動を通して対話力を育むとともに、家庭学習を促し、自ら学ぶ主体性を育成する。	□各授業において協同的な活動や家庭学習を推進し、各種調査において増加が見られたか。	B	○協同的な学習等の授業改善を進めて生徒の主体性の向上を図るとともに、生徒が学び方を学び、自発的・自律的に家庭学習に取り組む姿勢を養う。			
	④発問の工夫による思考力・判断力の育成を図るなど、教師の「ファシリテート力の向上」を行う。	□効果的な教育活動を実施し、新たな学習評価のもと各種調査において増加が見られたか。	B	○55分授業や探究学習の充実と質的向上を図るため、「ファシリテート力の向上」を目指し、学習者の可能性を最大限に引き出す指導の充実を図る。			
	⑤適切な観点別評価を行う。	□生徒の学習改善、教員の指導改善に繋がるものとなったか。	B	○観点別評価の目的を理解し、指導と評価の一体化を図り、その後の授業改善や生徒の振り返りにも役立て、教育活動の質的向上を図る。			
	学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「みらいの教員育成プログラム」を高く評価する。教員になりたい生徒の資質・能力の向上やモチベーションアップに繋げて欲しい。また、高校生の段階で自分が教員に向いているのか不向きなのかを考える機会があるのは良いことだと思う。</li> <li>・55分授業を最大限に活用し、生徒に求める以上の授業改善や質の向上を先生方に求めます。</li> <li>・社会に出るとコミュニケーション能力や主体性、行動力が求められます。引き続き、この点を伸ばしてもらいたい。</li> </ul>					
Ⅱ 生徒指導	①面談等を通していじめや悩み事を把握するなど生徒に寄り添う支援的生徒指導を行い、自主的・自律的な生活態度を育成する。	□カウンセリングマインドをもって生徒に接し、組織的な支援体制で自主・自律的な行動を促すことができたか。	B	○日常的な声かけ・観察や面談週間を効果的に活用し、様々な角度から捉えた生徒情報を共有・対応する環境を構築する。	B	B	
	②すべての生徒が人権を尊重し、「いじめはしない、させない、許さない」という意識と態度を育成する。	□いじめ防止対策委員会において、定期的に情報を共有し、組織的に解決に導くことができたか。	B	○互いを認め合える人間関係・学校風土を構築し、いじめに至る前の人間関係から支援を行う。また、保護者や関係機関との適切な連携を図る。			
	③情報モラルの重要性や責任について考えさせるとともに、情報社会に主体的に関わる態度を育成する。	□Wi-Fiの活用や校則について、生徒・家庭・学校の三者で実行性のある取組ができたか。	B	○校則の見直しや改訂とともに、スマートフォン等の使用や情報活用モラルについて、生徒に考えさせる指導を実践する。			
	④校則の見直しを図る。	□校則に対する理解を深め、校則を自分たちのものとして守っていくこととする態度を養うことにつながり、生徒の主体性を培う機会となったか。	B	○生徒や保護者、地域の意見・考えを踏まえたうえで見直しや改定を行い、生徒の校則に対する理解を深め、生徒の主体性を培う機会とする。			
	学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校則の見直しについて、教職員評価にCD評価が多く、前向きに校則を見直す機会にしてもらいたい。また、見直しや改訂の際には教員と生徒間の考え方の差を理解した上で生徒・保護者の声を聞き、見直しや改訂に反映させて欲しい。</li> <li>・18歳成人や18歳選挙権を見据え、身近である校則の見直しに生徒が積極的に関わることが当事者意識の向上や主権者教育の充実につながると思う。ぜひ、生徒の主体性を養う機会としてもらいたい。</li> <li>・いじめ対応は認識の甘さや対応の不手際から大きな問題に発展するケースがある。生徒・保護者と信頼関係を構築した上で、迅速・慎重な対応を求めたい。</li> </ul>					
Ⅲ 進路指導	①新たな大学入試制度の情報収集・発信を行い、学校推薦型・総合型選抜の対応を推進する。	□教職員、生徒、保護者に対応した有効な情報発信、推薦に関する具体的な準備ができたか。	B	○共通テストや学校推薦型・総合型選抜の動向を把握し、収集した情報を踏まえて具体的な対応策を進路Gと学年団の連携により、戦略的かつ柔軟に検討する。	A	A	
	②系統的な進路指導計画を再構築し、探究活動や進路研究をとおして職業観・勤労観を育成し、主体的な進路活動を促す。	□探究活動や各種進路講演会などの取組が効果的に計画・実施され、生徒の主体的な進路意識を高めることができたか。	B	○キャリア教育・探究活動をとおして、多様な生き方や価値観に触れ・経験し・感じ、生徒自らが進路意識を高め、課題を設定し解決する力を育成する。			
	③ICTの活用をし、各種データの分析を行い個々の進路実現に必要な能力を育成する。	□各種模試等の成績データ分析等を適切に行い、各教科が設定した達成目標を実現できたか。	B	○共通テストの問題作成方針の方向性やポイント分析を適切に行い、各教科における講習の達成目標と指導方法を全体で把握し、指導計画の改善充実を努める。			
	学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切なデータ分析による系統的な進路指導、アドバイスが進路実績の結果に繋がっていると思われる。今後も生徒の進路実現を目標に授業改善・講習の充実を期待したい。</li> <li>・入試制度が変容する昨今、生徒や保護者への情報発信の重要性は高まっていると思うので、様々な機会を通じて周知して欲しい。</li> <li>・多様性が求められ、大切にされる時代だと思います。生徒の多様な生き方に対応できる進路指導・キャリア教育の充実を期待する。</li> </ul>					
Ⅳ 健康・安全指導	①自他の生命を尊重し、自らの心身の健康意識を高め、管理できる力を育成する。	□生徒情報交換会や生徒理解支援ツールを活用し、生徒の心身の健康状況を把握し指導ができたか。	B	○日々の情報交換や各種調査を継続して実施し、生徒情報の共有を行う。あらゆる教育活動において生命尊重と心身の健康意識を高めるための啓発を継続する。	B	B	
	②生徒の教育上の問題について、組織として対応し、機動的に解決する。	□生徒の欠席状況や学校での様子について、SCと連携し、教員間で情報を共有できたか。	B	○養護教諭やSCと学年の連携を密に行い、生徒の困り感やストレス等の把握と、その対応について組織的に展開する。			
	③危機管理マニュアルに基づき、防犯・防災・交通安全に関する危機管理能力を育成する。	□防犯・防災・交通安全に関する取組を通して、日常の様々な危険について自ら判断し、身を守る能力を高めることができたか。	B	○啓発資料等を活用したHR活動や各種講演会等をとおして、自他の安全状況を適切に評価・意思決定し行動できるよう、生徒の危機管理能力を育成する。			
	学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の社会情勢が少しずつ緩和されているが、付随するストレス等に対応に苦慮していると思う。今後も生徒に寄り添っていただけるように期待している。</li> <li>・多様な生徒や様々な悩みやストレスを抱えた生徒が増えていると聞いている。「困ったら相談してもいいんだ」「相談されたら聞いてあげる」など、様々な機会を通して、援助希求能力を身につけてあげて欲しい。</li> </ul>					
Ⅴ 学校運営	1 分掌、学年、教職員相互のコミュニケーションを積極的に行い、組織力を生かした学校運営を行うことができた。		B	○課題を共有し明確にした上で、協働体制を構築し、共通理解のもと課題解決や改善充実を進める。	B	B	
	2 様々な危機管理事案に教職員間、関係機関等と連携して迅速・的確・丁寧に対応することができた。		B	○様々な危機を予防する観点から、円滑に報告・連絡・相談のできる体制を作り、リスク管理及び初期対応を行う。また、関係機関との連携を推進する。			
	3 北海道アクション・プランに基づき、年間73日以上部活動休養日を設けることができた。		B	○適切な休養日と活動時間を指導計画に反映し、合理的・効率的に部活動を運営する。地域移行・兼業兼職の動向を踏まえ、適切な指導体制の構築に取り組む。			
	学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1について、教職員の評価の低さが気になります。改善・充実の余地があると肯定的に捉えて、コミュニケーション力を高めて、オール北陵として動いていただけるよう期待している。</li> <li>・部活動の在り方は教員を目指す生徒のためにも大切であると思われる。部活動に対する教員の考え方も差がある中、活動時間・活動内容の一元化は難しい課題であると思うが、生徒にとって魅力ある・可能性を高める部活動運営・学校運営を期待したい。</li> </ul>					